

◆文章力の基本を身につける

企業は学生の基本的な文章力を見ています。
添削の際に必要な視点を身に付けてください。

1、接続語などに関すること

- ・接続語は「しかし」のみ使用 ひとつの回答に多数不要
- ・「また」「そして」は省略する
- ×ブラスバンド部に所属していました。そして部長を任されました。
- ブラスバンド部で部長を任されました。

- ・「という」不要
- ×考えるということが大切だと感じました。
- 考えることが大切だと感じました。

- ・「が」は逆説のみ
- ×ピアノを小学1年生の頃から始めたが、今も続けている。
- ピアノを小学1年生の頃から始め、今も続けている。

2、使わない方がよいキーワード

- ・「成功させた」「成し遂げた」は×
- ×オープンキャンパスを見事に成功させました。
- 「成功」の定義があいまいで自画自賛のように感じます。
- オープンキャンパスの来場者数は約 10,000 人と対前年比で一割増加しました。入念に準備しましたが、至らなかった点～があります。改善案は～です。後輩が 12,000 人を達成するために～することを伝えました。
- 事実を記述し、体験（反省点、向上のための改善点や意欲）を伝えましょう。

- ・「生かす」は慎重に
- ×自分の傾聴力を生かしてアルバイト先の後輩の相談にのりました。
- なるべく自分ばかり話さないように慎重にアルバイト先の後輩の相談にのりました。
- 「生かす」とは能力があることが前提となります。まだまだこれから成長すると考えて、これから成長があることを想定し記述しましょう。

・「自主的」「積極的」「主体的」多くの人が行っていることは×

×主体的に大学の授業に取り組みました。

大学生が主体的に授業に取り組むのは当然と感じます。

○アルバイト先への出勤の際は定刻の 30 分前に自主的に到着するように心がけています。
一般的にアルバイト先への出勤は 10 分前程度のため、30 分前に到着することは評価されることとなります。

3、その他の注意点

・ですます調で書く

である。～だ。は少し高飛車な印象があるため、ですます調が好印象です。

・「私は」省略する

ES の主語は基本「私」であるため、ほぼ省略できます。文字数がもったいないです。

・盛らない、うそをつかない（自慢、誇張）

×「3 倍もの入場者数」「～と言われるまでになりました」

○「文化祭で入場者数が 3 倍になりました」「～と言われました。」

どうしてもエピソードを誇張して書きたくなってしまいますが、採用担当から見るとそのような印象になります。事実を淡々と書くと好印象につながります。

・質問は回答にいれない

×学生時代に最も力を入れたことは、サークルで～

○サークルで～

文字数がもったいないです。

・前半 7 割経験（事実）後半 3 割体験を書く

前半の 7 割で事実を書いて、後半 3 割で体験（解釈、総括、感想、反省、改善点、思ったことや感じたこと、どのように生かしたいか）を書きます。

・質問の回答を最初に短く書く

目安として 1 行目に収まる程度です。

自己 PR としての例

×「私は小学 1 年生のときから大学生までピアノを 15 年間続けています」

○「努力することを大切にしています」

・一文が長くなるように、2行程度で考える

・経験の期間は「いつからいつまで何年」と具体的に書く

×15年間続けたピアノ

○小学1年生から大学生まで15年間続けたピアノ

・漢字とひらがなの適切な使い分け（参考：記者ハンドブック）

×綴る、出来る、繋ぐ、時

○つづる、できる、つなぐ、とき

・指定された文字数の9割は書く

20文字以内など文字数が少ないときは、8割以上で問題ありません。

・書けたら声を出して読んでみて、校正する

声を出して耳で聴くことで何を書いているかが再確認できます。